

景況レポート

(7月分・情報連絡員80名)

非製造業で悪化割合が増加、 全体景況DI値も後退

【概況(全体)】

7月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが3.8%(前回調査5.0%)、「悪化」が40.0%(同35.0%)で、業界全体のDI値は-36.2となり、前月調査と比較し6.2ポイント下回った。製造業で東北・北海道ブロックを0.2ポイント上回ったものの、非製造業のDI値が大きく後退したことで、全体DI値についても低調に推移する要因となった。

【業界別の状況】

業界別では、好転業種については鉄鋼・金属、自動車販売の3業種にとどまり、小売業や建設業の非製造業で悪化割合が増加したことで景況感は後退した。業種を問わず売上に改善傾向がみられず、非製造業では収益状況は悪化している。人手不足の影響が大きくなってきており、受注・収益に留まらず、事業継続等にも大きな影響を与える懸念がある。消費増税、働き方改革への対応、最低賃金引き上げを懸念する声も多く、先行きを不安視する見方も増加している。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-36.2	-28.4	-30.1
製 造 業	-37.5	-33.0	-37.7
非製造業	-35.4	-24.9	-25.8

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

【凡例】

快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 曇り 10未満
 雨 10未満
 雷雨 30以下

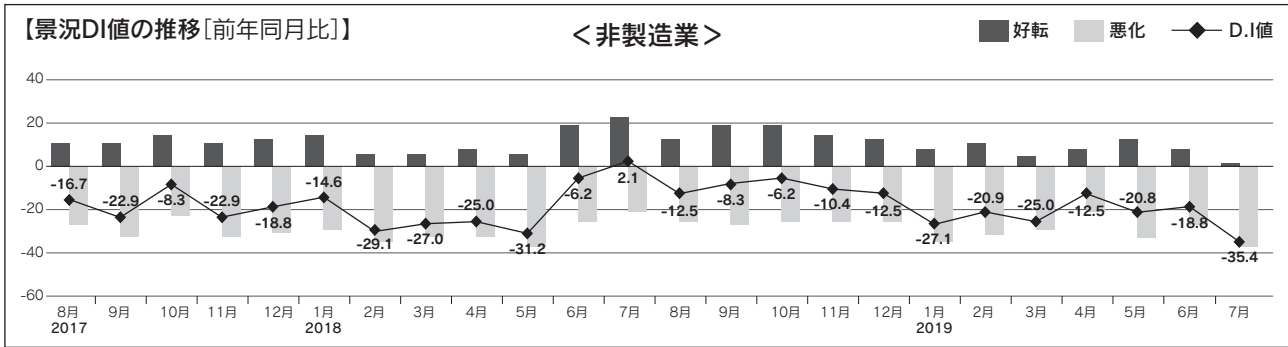
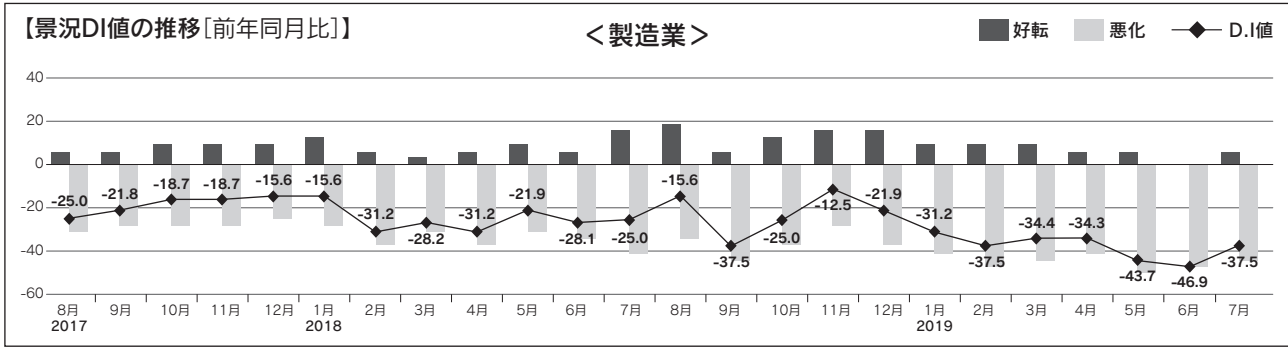
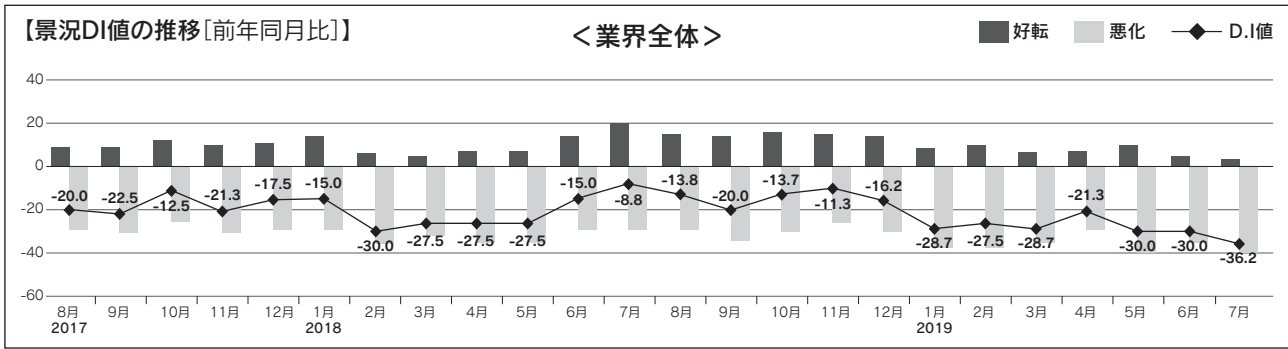
【天気図の見方】
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ~製造業~

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (パン)	気温が高く、売上には厳しい状況が続いている。学校給食も7月の登校日が減少したことで大きく前年を下回っている。8月より小麦粉の価格が値下げとなる。
食料品 (菓子)	暑いこの時期、一般的に生和菓子の売上は減少するが、今年はGW明けから引き続き売上が思うように回復せず、厳しい状況が続いている。夏季にかき氷を販売する製造小売の店舗では、暑さのおかげで出だしは好調のようである。
繊維工業 (ニット)	受注量は前年並みで生産の最盛期であり、各社ともフル稼働している。ただし、店頭が売れていないため、加工賃は厳しく先の受注見通しが不透明である。
繊維工業 (繊維)	消費増税を控え、納期が前倒し傾向になっており、残業が増加している。増税後の消費動向が不安である。(中央地区)
木材・木製品 (一般製材)	4~7月の製品販売量は、前年比108%と県外・県内ともに順調に推移している。原木入荷量は素材業者が国有林請負作業に入り、民有林の生産量が減少したことで減少傾向になってきた。現在、価格は弱含み横ばいで推移している。
木材・木製品 (素材生産)	一般製材用原木の生産量は、供給が増加傾向にあるが消費は横ばいで推移しており、価格は安値に転じている。合板用原木については、安定した供給となっており、国産針葉樹合板の消費も横ばいで推移していることから、在庫については大きな変化はみられないものの増加傾向にある。チップ用原木は、木質バイオマス工場が新設されたことから、製紙用、バイオマス用とも不足している。
印刷	改元による発注控えが解消され、消費税増税に伴う動きも出始めており、仕事の動きはあるものの安値の受注はなくなっておらず、用紙・諸材料の値上げにより受注価格の引き上げが重要である。働き方改革への対応や求人難は経費の増加を招き、大きな課題となっている。(中央地区)
窯業・土石製品 (生コンクリート)	7月の出荷数量は前年同月比80%前後。4~7月累計で87%台と依然低い数字となっている。現在、県南地区の災害復旧工事のみで秋田中央地区の大型物件は年内の出荷が微妙である。県南地区を除き、各地区とも昨年度の出荷数量を大幅に下回ると予想される。
鉄鋼・金属 (機械金属)	7月に入り公共工事、民間工事ともに活発になってきている。各社とも残業するなど100%以上の稼働となっている。当面の受注は確保されている状況にある。
一般機器 (金属加工)	受注面は前月に引き続き、前年同月比大幅に減少している。依然として先行きが不透明な状況にある。原材料は需給バランスからか値下がり傾向にある。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (青果)	売上高は前年同月比84.9%で推移した。野菜については全般的に低調に推移し、特にキャベツ、大根等の大型野菜、レタス等のサラダ野菜等が最後まで低調に経過した。果物に関しては主力が県内産のメロンやスイカ(小玉スイカ含む)等であるが、特に本年はスイカの売上が落ち込んでおり、消費者の消費動向の変化や購買意欲の弱さが現れる結果となった。
卸売業 (米麦卸)	平成30年産米の主食用米の販売進捗率は90%を超え、順調に推移している。梅雨明け宣言され、稲の生育も順調に推移しており、出穂も始まりこれからの日照が良ければ作況も良いのではないかと期待している。
小売業 (電機)	関東、東北太平洋側地域と比べ、天候に恵まれエアコンの売上が順調であった。特に、後半は高温・多湿であったため台数が伸び、売上に貢献した。テレビについては4Kテレビが単価アップにつながっている。
小売業 (花卉)	6月の落ち込みから多少持ち直している感がある。ただ、天候不順などもあり品薄状態で、仕入れ値も若干高値が続いている。
商店街	街区内の空き店舗を子育てママ向け支援スペースと起業者向けシェアオフィスとして活用するプランが進められている。街区への新たな誘客策と今後の商店街のあり方について検討する機会となりそうである。(大館市)
サービス業 (タクシー)	好天続きのため、運行回数は減少した。乗務員数は前年同月比で78名の減少となっているが、前月よりは2名増加となっている。
建設業 (電気工事)	公共工事は若干発注されてきているが、一般住宅は最近5年間で最低の発注数で、電気使用申込件数も大幅に落ち込んでいる。(県南地区)
運輸業 (トラック)	売上、収益とも前年同月比では増加しているが、輸送量は思ったよりも悪かった。7月末から8月にかけて青果物等の貨物が増加し、車両が不足気味になった。燃料価格は、前月価格が据え置きとなったことで、前年同月の価格より安値となり、収益には良い影響を与えている。(県南地区)
その他の非製造業 (砂利)	骨材の出荷量は前年とほぼ同程度であった。今後、ダム工事関連で出荷量は増加の見通しである。(県南地区)